

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
華服飾専門学校		昭和51年6月10日		坂本 宗寛		〒 110-8662 (住所) 東京都台東区根岸1-1-12 (電話) 03-3875-1111					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人華学園		昭和33年7月3日		森田 十萮子		〒 110-8662 (住所) 東京都台東区根岸1-1-12 (電話) 03-3875-1111					
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	服飾専門課程		ファッションテクニカル科		平成7年文部科学省告示第7号		-		平成25年度		
学科の目的		本校は服飾に関する専門的な学理と技術を教授し、職業・実生活に必要な能力を育成すると共に教養の向上を図り、我が国文化並びに社会に貢献することを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		①製図、縫製の技術と知識を養う。②真・善・美を基調とした感性、思考、判断する力を養う。③伝える力(コミュニケーション・プレゼンテーション・デザイン画等のヴィジュアル表現力)を養う。④専門知識を体系的に理解し、実践に結びつける行動力を養う。⑤現代社会のさまざまな場面において協働して目標を達成できる力を養う。 取得できる検定:ファッション販売能力検定3級 ファッション色彩能力検定3級 パターン技術検定2・3級 洋裁技術検定初級・中級									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
		62 単位			25 単位	0 単位	37 単位	0 単位	0 単位		
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率				
70 人	22 人		0 人		0 %		4 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		:		13 人						
	■就職希望者数(D)		:		7 人						
	■就職者数(E)		:		7 人						
	■地元就職者数(F)		:		6 人						
	■就職率(E/D)		:		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		:		86 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		:		54 %						
	■進学者数		:		2 人						
	■その他		:								
	(令和 7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報)										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		※有の場合、例えば以下について任意記載								
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.hana-fashion.ac.jp/										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)										
	総授業時数		単位時間								
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間								
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間								
	うち必修授業時数		単位時間								
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間								
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間								
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間								
	(B:単位数による算定)										
	総単位数		6 単位								
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		6 単位								
	うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位								
	うち必修単位数		3 単位								
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		3 単位								
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位								
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号) 3 人								
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号) 1 人								
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人								
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人								
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号) 1 人								
	計		6 人								
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会の委員長は学校長とし、業界の求める人材の動向、実務に必要な最新の知識・技術・技能などを審議する事を目的に教育課程編成委員会を設置し教育課程の策定を行う事とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
あいざわあゆみ	一般社団法人日本ファッションスタイリスト協会 代表理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	①
佐々木 麗華	株式会社アズノウアズ	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
尾崎 雅久	株式会社フォルムアイ 東京事業本部 営業推進部 部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
井上 伸行	株式会社井上伸行デザイン事務所	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
貞森 結花	株式会社タップ 次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
坂本 宗寛	華服飾専門学校 校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
小倉 展伸	華服飾専門学校 教員	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
星野 沙耶佳	華服飾専門学校 教員	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
神谷 由紀	華服飾専門学校 教員	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
半田 瑠菜	華服飾専門学校 教員	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月・2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年7月22日 15:00～17:00

第2回 令和8年2月25日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業の採用に関してヒアリングの結果①留学生の採用②インターンシップの重要性(早期離職の防止)

③資格取得の意義④採用面接での重要項目など、今後のカリキュラム改訂や授業で役立てていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

建学の精神である「華学園の教育を通じて 時代の求める職業人を育成」する為に、業界で実際に活躍している講師を招聘しファッション業界で役立つ知識・技能を身につけさせる。講師選定にあたっては学生が社会人となった時にすぐに活用できるように現在 業界で活躍中の業界人を条件とした。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業に講師派遣を依頼し、通年または半年の授業をする。授業内容は実践的であり、社会に出て必要な能力を養う内容。

1年ファッションテクニカル科後期に「プロソーイング」として週5コマ(1コマ50分)×15回 計75コマの授業を、連携企業から派遣された講師が行い実際の職業の現場での手法を学生に指導する。また、S、A、B、C、Fの評価を行いC判定以上は3単位修得。

2年ファッションテクニカル科前期に「量産企画実習」として週5コマ(1コマ50分)×15回 計75コマの授業を、連携企業から派遣された講師が行い実際の職業の現場での手法を学生に指導する。またS、A、B、C、Fの評価を行いC判定以上は3単位修得。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
量産企画実習	講義・実習	・ジャケットパターン、スカートパターンの製作 ・ジャケット、スカートの製作 ・仕様書の制作 等	室谷企画
ファッションマーケティング	講義・実習	・マーケティング全般について ・店舗作り ・レイアウト	・(株)井上伸行デザイン事務所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規程 第1条の目的並び第4条の研修の計画的推進に基づき教職員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能ならびに、授業および学生に対する指導力等の修得、向上を目的とする組織的な研修を計画を立てて受講させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「製図(パターン)研修」	連携企業等:	アレーラボ
期間:	令和7年3月 2日間	対象:	2名
内容	講師アトリエで研修。服飾造形を担当する教員がフォーマル衣装の製図(パターン)について実習		
研修名:	「シャツ・ブラウスパターン修正研修」	連携企業等:	(有)エグステUDIO
期間:	令和7年2月・8月 2回	対象:	2名
内容	ドレーピング講師(フリーパタンナー)による有型修正方法の実習		
研修名:	刺繍講座「ステッチ100(本科)」	連携企業等:	日本手芸普及協会
期間:	令和5年11月～令和7年継続実施	対象:	1名
内容	フランス刺繍・リボン刺繍を通信講座にて学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	『2025年度「雇用・学生・業界」の課題 ～だから大切に導きたい！初めての就職～』	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年1月20日(火)	対象:	1名
内容	【雇用環境のリアル】ここまで開く新卒と中途採用 他		
研修名:	『教師のための学生カウンセリング研修会』	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和7年6月2日、8月4日	対象:	1名
内容	カウンセリングの基本技法		
研修名:	「SNSテクニック講習」	連携企業等:	(株)with fun
期間:	令和7年5月15日	対象:	2名
内容	UPするタイミングや各メディアの有効的な使い分け等		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	織物工場、刺繍工場、絹糸の製造工場見学	連携企業等:	(株)笠盛、(株)紫 他
期間:	令和8年9月26, 27日	対象:	2名
内容	伝統ある織物工場から最先端の刺繍工場などを見学		
研修名:	資材展示会見学	連携企業等:	一般社団法人日本ファッションウィーク推進機構(JFWO)
期間:	令和8年10月14日	対象:	1名
内容	繊維総合見本市「JFW JAPAN CREATION」見学		
研修名:			
期間:			
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	不安を力に変える！就活メンタルモチベーションアップ講座	連携企業等:	東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和8年1月20日	対象:	1名
内容	繊維総合見本市「JFW JAPAN CREATION」見学		
研修名:	学校における学生理解と対応	連携企業等:	カウンセラー神田亜弥子
期間:	令和8年3月4日	対象:	6名
内容	メンタル的に弱い学生に対する対処方法について		
研修名:			
期間:			
内容			

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
自己点検・自己評価の結果に対し、年2回学校評価ガイドラインに沿って外部評価を実施し、審議された内容から改善提案を行い、次年度へ反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
学生の自主性を重視する取り組みは評価できる。必要な設備や対応はハード面、ソフト面で時代と共に必須である。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
椿 仁三千	新渡戸文化学園 講師	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	高校等委員
北里 麻里恵	株式会社オンワード樫山 販売人財Div. 販売人財Sec.	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
塚田 龍一	株式会社ステップス 常務取締役	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
野田 亜沙美	フリースタイリスト	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生
〇〇 〇〇	〇〇〇〇〇	令和〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日(2年)	〇〇

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.hana-fashion.ac.jp/>
公表時期: 令和7年6月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

下記(2)ガイドラインに基づく項目の情報をホームページ上に公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要 教育目標及び授業計画等
(2)各学科等の教育	各学科等の教育(カリキュラムポリシー)
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:

<http://www.hana-fashion.ac.jp/>

公表時期:

令和7年6月

授業科目等の概要

(服飾専門課程ファッションテクニカル科) 令和7年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ライフスタイルファッション研究	ファッションの流れを知り、美的センスを磨きます	1前	45	1			○	○	△	○			
○			イベント企画Ⅰ	ファッションショーの企画を一から行いファッションショーを作り上げる過程を学びます	1後	45	1			○	○	△	○			
○			イベント企画Ⅱ	Ⅰに続きファッションショーの実施を学生全員で行うことで協調性を学びます	2前	75	2			○	○	△	○			
○			ブランド企画	グループでオリジナルブランドを企画し商品进行を考案、プレゼンすることで社会での実践力を学修します	2後	45	1			○	○	△	○			
○			総合実習Ⅰ	1つ目は運動会、学園祭など学校(学園)行事に積極的に参加し、各人に与えられた役割を果たし、協調性を養います。2つ目は縫製工場、デザイナーの展覧会見学などを通して学内では養うことができないことを学修します	1前	60	2			○	○	○	○			
○			総合実習Ⅱ	1つ目は運動会、学園祭など学校(学園)行事に積極的に参加し、各人に与えられた役割を果たし、協調性を養います。3つ目は縫製工場、デザイナーの展覧会見学などを通して学内では養うことができないことを学修します	1後	60	2			○	○	○	○			
○			総合実習Ⅲ	1つ目は運動会、学園祭など学校(学園)行事に積極的に参加し、各人に与えられた役割を果たし、協調性を養います。4つ目は縫製工場、デザイナーの展覧会見学などを通して学内では養うことができないことを学修します	2前	60	2			○	○	○	○			
○			総合実習Ⅳ	1つ目は運動会、学園祭など学校(学園)行事に積極的に参加し、各人に与えられた役割を果たし、協調性を養います。5つ目は縫製工場、デザイナーの展覧会見学などを通して学内では養うことができないことを学修します	2後	60	2			○	○	○	○			
○			LIFOプログラム	「LIFOプログラム」を用いて、自分の強みを認識し、個性を伸ばしていく一助とします	1後	15	1	○		△	○		○			
○			オリジナルプランニング	各自でこれまでの技術や知識を集大成し、服の製作やトレンド研究などを行い「卒業作品展」という形で発表します。社会で必要な「考える力」を養います	2後	30	1			○	○	△	○			
		○	就職ガイダンスⅠ	求人票の見方や履歴書の書き方、面接の受け方等を学んでいき、スムーズに就職活動に取り組めるよう学修します	1後	15	1	○		△	○		○			
		○	就職ガイダンスⅡ	内定取得に向け、受験中の企業のエントリーシート作成や面談等を行い実践力を養います	2前	15	1	○		△	○		○			
○			一般常識Ⅰ / パソコンⅠ	社会で生活していく上で、必要な知識となる内容について興味を持ち、自分で考え、勉強し、気づきを得ることを目標とします。算数・国語など一般常識を始め、仕事、社会生活に関わる知識と「考えること」を課題を通して学修します	1前	15	1	○		△	○		○			
	○		一般常識Ⅱ	社会で生活していく上で、必要な知識となる内容について興味を持ち、自分で考え、勉強し、気づきを得ることを目標とします。算数・国語など一般常識を始め、仕事、社会生活に関わる知識と「考えること」を課題を通して学修します	1後	15	1	○			○		○			
	○		一般常識Ⅲ	社会で生活していく上で、必要な知識となる内容について興味を持ち、自分で考え、勉強し、気づきを得ることを目標とします。算数・国語など一般常識を始め、仕事、社会生活に関わる知識と「考えること」を課題を通して学修します	2前	15	1	○			○		○			

[illegible]

		○	量産企画実習	ジャケットパターン、スカートパターンの製作を学び工場での仕様書の製作も学修します	2 前	75	3	△		○	○			○	○
○			ドレーピングⅠ / アパレルCADⅠ	ドレーピング方法の基礎を学びます コンピューターパターンメイキングの基本操作を学びます	1 後	30	1	△		○	○			○	
		○	ドレーピングⅡ	シルエット表現方法を学び、デザインバリエーションを学修します	2 前	45	1	△		○	○			○	
		○	アパレルCADⅡ	Ⅰで学んだ基本操作を活かし、ブラウスやスカートのパターン展開の操作方法を学びます	2 前	30	1	△		○	○			○	
○			着付Ⅰ	浴衣の名称、たたみ方、自装、他装等を学びます	1 前	30	1	△		○	○			○	
	○		コンセプトメイクⅠ	基礎化粧品の使用方法、スキンケア、メイクアップ基礎等を学びます	1 後	30	1	△		○	○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅰ	レディース、メンズ、プロポーションの描き方を学び コンテスト応募を目指します	1 前	30	1	△		○	○			○	
	○		ファッションデザイン画Ⅱ	素材表現を学び、商品仕様書で使用する製品画を描けるよう学修します	1 後	30	1	△		○	○			○	
		○	フリーゼミナールⅠ	既定の授業以外に複数の演習科目から自ら選択し学ぶことができます。ファッションの学習の幅を広げることができ、スキルアップに役立ちます	1 前	30	1	△		○	○	△	○		
		○	フリーゼミナールⅡ	既定の授業以外に複数の演習科目から自ら選択し学ぶことができます。ファッションの学習の幅を広げることができ、スキルアップに役立ちます	1 後	30	1	△		○	○	△	○		
		○	フリーゼミナールⅢ	既定の授業以外に複数の演習科目から自ら選択し学ぶことができます。ファッションの学習の幅を広げることができ、スキルアップに役立ちます	2 前	30	1	△		○	○	△	○		
		○	フリーゼミナールⅣ	既定の授業以外に複数の演習科目から自ら選択し学ぶことができます。ファッションの学習の幅を広げることができ、スキルアップに役立ちます	2 後	30	1	△		○	○	△	○		
合計				47科目	1800単位時間(74単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：専門課程の全過程修了要件は62単位以上とする。		1 学年の学期区分	2期
履修方法：47科目中 必修43単位、選択必修4単位、自由選択27単位を履修		1 学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。